1 年間でここまで進んだ羽曳野市



身を切る改革から始めた市政運営

昨年7月25日、市民の皆様から多くのご期待やご声援を賜り、第18代羽曳野市長に就任させていただきました。市政運営の基本となる「**羽曳野市の未来を創る~7つ の柱~**」をお示しし、着実に実行してまいりました。

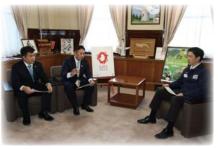
まずは身を切る改革として、**自らの給与の削減**(令和 2 年度 50%、令和 3 年度以降 30%)と**今期の退職金を廃止**しました。

すべての事業を見直し、総事業費5%削減を実現

不要不急の事業の休止や、懸案であった**市民プールを屋内から屋外に** するなどすべての事業を見直し、そのうえで必要な事業には予算をつけるなどメリハリのある予算編成を行いました。

その結果、令和3年度は**総事業費の5%(約20億円)の予算を削減**しました。





大阪府との連携強化

まちの利便性を高めるインフラ整備をはじめ様々な分野で大阪府と細部にわたり協議を重ねてきました。また吉村大阪府知事とお会いして意見交換を行い、2月には「ワクチン接種に関する羽曳野モデル」を直接説明し支援を求めるなど**これまでにない大阪府との連携体制を構築**してきました。2025大阪・関西万博に向け大阪府とさらに連携し、羽曳野市の魅力を国内外へPR していきます。

自主財源を確保するための取り組み

自主財源確保の強化を図るために、昨年10月ふるさと納税をより一層推進する専門チームを設置しました。魅力ある返礼品の充実を図り前年度の約3倍の返礼品を用意することができ、令和2年度は前年度の約3倍の寄附額を全国からいただくことができました。これからもさらに高い目標を掲げて取り組んでまいります。





SNS などを利用した情報・魅力の発信

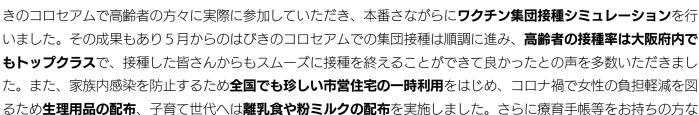
Facebook を毎日更新・市公式 LINE の運用開始・市公式 YouTube チャンネルでの 番組「羽曳野市政をはじめから」を配信など、SNS を活用した情報発信を積極的に取り 組んでまいりました。

各メディアからも取り上げていただける機会が増え、テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット番組にも出演させていただき、市の魅力を積極的に発信してまいりました。今後も様々な世代の皆様に楽しんでいただけるようなコンテンツ作りに取り組んでまいります。

市独自施策の実行

羽曳野で安心して子育てができるよう、子育て世帯の負担軽減を目的に子どもの 医療費助成を 18 歳まで拡充し、未就学児に係る国民健康保険料の均等割減免を国 の施策より1年早く実行しました。

コロナ禍において、市独自の様々な施策にも取り組んできました。子育て支援として、 令和3年度の**小学校給食費の無償化、中学校給食費を半額**にしました。2月には、はび



どで集団接種会場でのワクチン接種に不安がある方に大阪府立西浦支援学校を会場とし てお借りして接種できるようにしました。

地域経済活性化のため Thanks. グッジョブ・チケットの配布(商工会への補助事業) を行っています。8月からはキャッシュレス決済還元事業や、防災意識を高めるために、 防災セット販売(購入補助事業)を実施してまいります。





民間事業者等との連携

企業、大学、各種団体などと連携を強化するため、この 1 年間で災害協定や **包括連携協定を計 13 件締結**することができました。災害時の応援・協力や地域 課題や社会的課題の解決に取り組みます。また、民間事業者から行政との連携に 関する相談や提案を一元的に受け付ける窓口として**羽曳野市公民協創デスク**を設 置しました。さらに、コロナ禍において事業者から多数の寄贈もいただいており 有効に活用させていただいています。

このような取り組みも行いました

- ・ICTツールの導入
- ・GIGA スクール構想の推進
- 产 產婦健診助成妊婦歯科健診助成
- ・防犯カメラ設置に対する補助金の拡充 など



地域区長懇談会の開催

市役所総合案内設置





陵南の森公民館に 健康器具設置

皆さんへのメッセージ



羽曳野市は都心から近く、自然豊かでとてもポテンシャルの高いまちです。この立地を活か し「企業誘致をして雇用を増やし、定住人口の増加を促進してまいりたい。そして、人口減少 に歯止めをかけ、税収を増やし、市民の皆様が求める施策を行なっていく。| このような好循 環を創り出していきたいと考えています。市民の皆様が住んでよかったまち、住み続けたいま ちと身近に思っていただけるよう、これからも市民の皆様の声を大切に、市政運営に全力で取 り組んでまいります。